

"Kashiwa-no-ha Creative Interface"

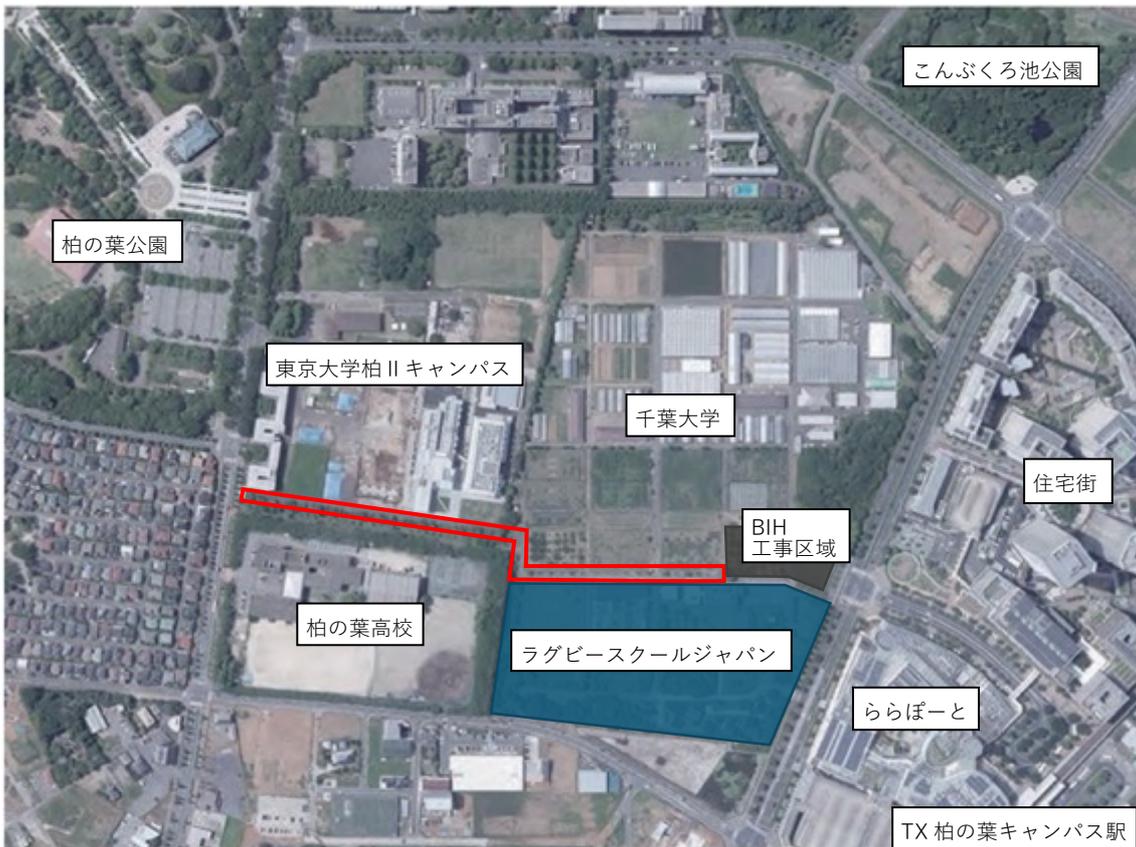
—グリーンフィールド×学園の道—

【課題】

千葉大学柏の葉キャンパスにおけるリーディングプラン指定エリア「グリーンフィールド」における対象範囲内に、柏の葉キャンパスの中心性を感じさせる大学のアイデンティティとなる景観の形成と地域の人も利用する公共空間的機能の両立を図る「交流・滞留のきっかけとなる場」を作る。

【対象敷地範囲】

・ 下図参照(赤枠の範囲)



柏の葉キャンパス

出典：国土地理院撮影空中写真(撮影年月 2019/06) (加工)

【「千葉大学キャンパスマスタープラン 2022」における対象地の位置付け】

＜ 1. フレームワークプラン（2005 年）＞
 緑のプロムナードの形成に寄与し、「キャンパスの緑のシンボルとしてグリーンフィールドを形成する」空間として、地域に開かれたキャンパスの中心的空間と位置付けている。

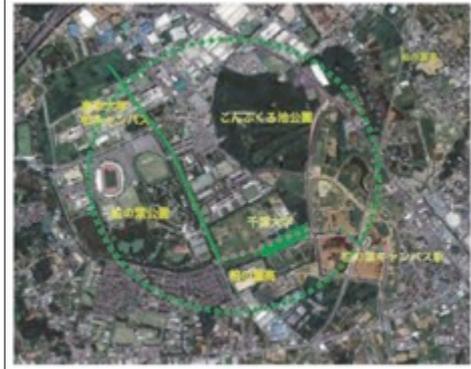
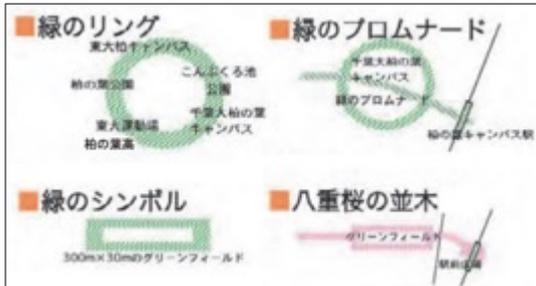


図 4-19 柏の葉キャンパス整備の基本コンセプト

＜ 2. 柏の葉国際キャンパスタウン構想（2008 年）＞

グリーンフィールドと重なる範囲について | 柏の葉キャンパス駅から、千葉大学柏の葉キャンパス、隣接する東京大学柏IIキャンパス、県立柏の葉公園へと抜けるルートは、その方針のひとつである「質の高い都市空間デザイン」を目指し、「大学が街へ広がる『学園の道』をつくる」ものと位置付けている。



「柏の葉国際キャンパスタウン構想」とは

- 千葉県、柏市、東京大学、千葉大学の4者により2008年策定
- 柏の葉国際キャンパスタウン構想委員会 (4者+UR、三井不動産/事務局：UDCK) により2014年充実化、2019年改訂
- 理念
公・民・学の連携による「国際学術研究都市」「次世代環境都市」
- 目指す都市の姿
「まち全体が大学のキャンパスのように緑豊かで質の高い空間となり、また、知的交流の場となること」
- 対象区域
柏の葉～柏たなかの区画整理区域 約13km²



1. 2を受けて

＜柏の葉キャンパスのリーディングプラン＞

本エリアは、健康、環境に寄与しながら地域連携を推進するゾーンとして位置付け、「グリーンフィールド（学園の道）」として整備する。

単なる市民の通過動線として開放するのではなく、柏の葉キャンパス駅周辺と柏の葉公園エリアを接ぐ空間として多くの市民が安心してここを訪れ、大学と地域のより一層の交流を生み出し、さらに大学の知を社会に発信できるような、地域に開かれたキャンパスの中心的オープンスペースとして整備する。

具体的には、この両側や道状の空間に沿って、多年度にわたる複数の施設整備計画を通した一体的な環境形成を行なっていく。そこでは、北側エリアの地域連携・産学連携の構想や、柏の葉駅から繋がるゲート空間の形成の必要性を踏まえ、南側エリアの国際連携ゾーンとも連携し、このエリアの両側での一体的な景観形成を目指していく。



図 4-20 柏の葉キャンパス将来ゾーニング



図 4-23 柏の葉キャンパスリーディングプラン



図 4-21 柏の葉キャンパス緑地・屋外交流スペースの検討

- ゾーニング：地域交流ゾーン
- 緑地・屋外交流スペース：重点整備緑地（将来計画）
- 交通計画：歩行者専用動線

【対象地の現況】

<基本情報>

- ・ 柏の葉キャンパス駅前と柏の葉公園方面を繋ぐ主要動線（道状のオープンスペース）。
- ・ 歩道の幅員は6m程度、緑地部分の幅員は、圃場沿いは20～30m程度、東京大学沿いは5～10m程度。
- ・ グリーンフィールド沿いに千葉大学、ラグビースクールジャパン（RSJ）、東京大学、柏の葉高校が立地する。
- ・ 正門入口付近にバイオヘルスイノベーションハブ（BIH）の建設を予定しており、現在は工事中。**今年度中に** BIHの竣工に合わせて入口前広場が整備予定。

<景観・植生>

●圃場沿いの敷地から見える景観

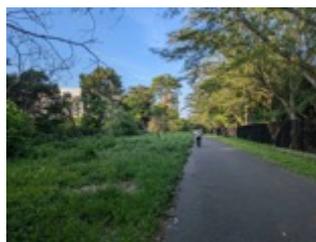
- ・ 北側は千葉大学の圃場が広がる田園景観。
- ・ 南側は昨年竣工したばかりのRSJがある国際色豊かなキャンパス景観。
- ・ 東側は駅前のタワーマンションや大型商業施設等の都市的な景観。
- ・ グリーンフィールド内は桜の並木景観。草が刈られ、芝生状に管理されている。

●東大沿いの敷地から見える景観

- ・ 南側は柏の葉高校の大木が緑陰を形成しているが、高校の擁壁（高さ0.3～1.5m程度）と柵が閉鎖的な印象を与える。
- ・ 北側は東京大学の整然としたキャンパス景観。
- ・ グリーンフィールド内の高木の多くは幹が細い中高木。植栽が整理されておらず、雑然としている印象だが、緑量が多い。草本類が伸びており、種類も豊富。

<利用者>

- ・ 柏の葉高校の学生（ほぼ全員）
- ・ 東京大学関係者（ちらほら）
- ・ 一般市民（ごく一部）



左：東大沿い（PM5：00頃）、右：RSJ沿い（PM7：00頃）

<運用・利用状況>

- ・ 平日のみ6：30～20：00開門。
- ・ 駅から柏の葉公園へ抜ける動線として、公道を利用するより遙かに近道だが、一般の人でも利用可ということについて認知度は低い。
- ・ ほぼ全ての人が通過利用しており、滞留が起こることは無い。



左：東大関係者、右：高校生&擁壁&柵（PM7：00頃）

【注意事項】

- ・方法は、原則として SPF 材を中心とする木材で学生が制作するストリートファニチュアなどによるものとする。
- ・それ以外の材料を用いたり、ソフトの提案を加えたりしても良いが、期間内に学生自ら準備し、実施できる内容とすること。
- ・制作物は、2024 年 11 月末まで設置場所に残置し、市民の利用に開くので、その間の耐久性、安全性には十分に配慮した設計・施工とすること。
- ・2024 年 11 月 3 日に開催予定のセンター祭に合わせて、市民に対し作品紹介を行う。
- ・2024 年 11 月末に解体作業を行い、廃材の置き場への運搬を行う。そこまで本演習の課題として含むので、設計時には解体のしやすさについても配慮するとよい。
- ・千葉大学のキャンパスマスタープラン、柏の葉国際キャンパスタウン構想など、対象地において重ねられてきた議論と目指されている方向についての理解を踏まえた提案とすること。
- ・アイデアはシンプルで、3 日間で決められた材料で工作可能なものにする。
- ・提案の焦点は作品の物体自体にあてる以上に、その効果、つまりグリーンフィールドの環境にそれが何をなし得るのか、という点にあてるようにする。

【材料】

- ・各班につき、以下の木材を最大として用意する。
 - a. 1"x4"x12'---9 本
 - b. 2"x4"x12'---9 本
 - c. 2"x6"x12'---9 本
 - d. 2"x2"x12'---9 本

【事前課題】

- ・以下の作業を個人で行い、7 月 26 日 23:00 までに Moodle にデータを提出すること。
- ① 敷地調査の結果を A3 用紙 1 枚（横使い）にまとめる。
- ② 敷地調査に基づいた、計画対象地と提案内容についてのアイデアを A3 用紙 1 枚にまとめる。（タイトル、考え方の説明、配置図、平面図、立面図もしくは断面図、パースを含むこと。即日設計的なイメージで良い。）

【事前セッション】

<事前セッション 1 >

日時 : 7 月 30 日(火) 13:00-16:00

場所 : 千葉大学柏の葉キャンパス環境健康科学研究センター管理棟 1 階 109 大講義室

内容 :

- ・グループ分け

- ・全体で現地調査

宿題 : <事前セッション2>までに、グループごとに実際に制作する作品の設計案を持参する。使用する材料の数量についても、チェックした表を作成してくること。

<事前セッション2>

日時 : 8月6日(火) 9:00-12:00

場所 : 千葉大学松戸キャンパス A棟 2階製図室

内容 : ・グループごとに提案のエスキスチェックを行う。

提出物 : ・材料の数量表

- ・設計図面
- ・模型があると良い。

【本セッション】

対象地と設置場所 : 千葉大学柏の葉キャンパス グリーンフィールド内

<1日目> 9月2日(月)

- ・現地を確認しながら、大きな構成を確認する。
- ・具体的な材料でどのように作れるのか、部分的な試作で確認する。

<2日目> 9月3日(火)

- ・部分的な制作で確認したディテールに基づいて、全体の作り方を決定する。
- ・材料の切り出しは、主にこの日に終える。(時間割あてをする。)
- ・不足する材料については班の間で調整する。

<3日目> 9月4日(水)

- ・それぞれの班で制作を完成する。

<予備日> 9月5日(木)

- ・直前に修正が必要な班は、この日を活用して作業しても良い。

※1日目～予備日の作業時間は、6:30～20:00の開門時間の中で調整可とする。

<4日目> 9月6日(金)

午前 : 最終調整・展示

午後 : 巡回講評会・打ち上げ